

社会基盤整備を後押し

愛媛大工学部
センター設置

測定・解析技術を活用

高度な測定(センシング)技術やデータ解析技術を活用し、社会基盤の整備や安全安心なまちづくりを目指す「愛媛大工学部附属社会基盤 i (アイ) センシングセンター」(中畑和之センター長)の看板除幕式が4日、松山市文京町の同大であった。道路や堤防の維持管理負担を減らすツール開発や、データを活用したスマートシティーの提案などに取り組み、地域課題の解決を図る。

地方の人口減少やインフラの老朽化、大規模災害などが懸念される中、社会基盤の強靱(きょうじん)化に向けた開発支援や人材育成をしようと、1日に設置。工学部でセンサーやロボッ

トの研究開発、データ解析、社会基盤などを題材にする各教員を横断的につなげ、社会実装に向けた研究を強化する。約40人が学部と兼任で所属する。

中畑センター長は「インフラだけでなくまちづくりや環境、防災など地域の人

々の便益につながることを広くテーマにしたい」と説明。例として、小型無人機ドローンとセンサーを組み合わせたインフラの点検ツールや、アプリで旅行者らの行動を把握し、観光やまちづくり施策に生かすシステムなどを挙げる。

今後は教員間や学外との情報共有を図るセミナーを月1回開催し、来年1月にキックオフシンポジウムを実施予定。自治体のニーズ把握なども進め、国土交通省松山河川国道事務所との勉強会も行う。中畑センター長は「センター化により分野横断が行いやすくなる。社会実装に向け、学部間の連携を強め、社会にもアピールしていきたい」としている。

(伊藤絵美)



看板除幕式でセンター設置
を祝った愛媛大関係者

11月4日午前、松山市文京町

2019年12月5日付 愛媛新聞

掲載許可番号:d20191206-001